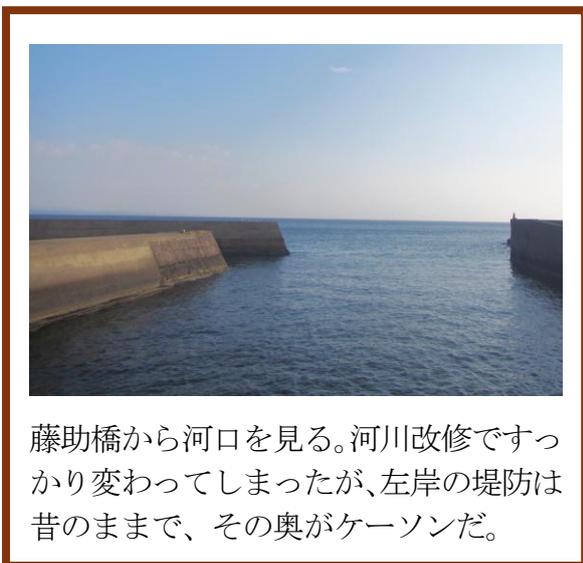
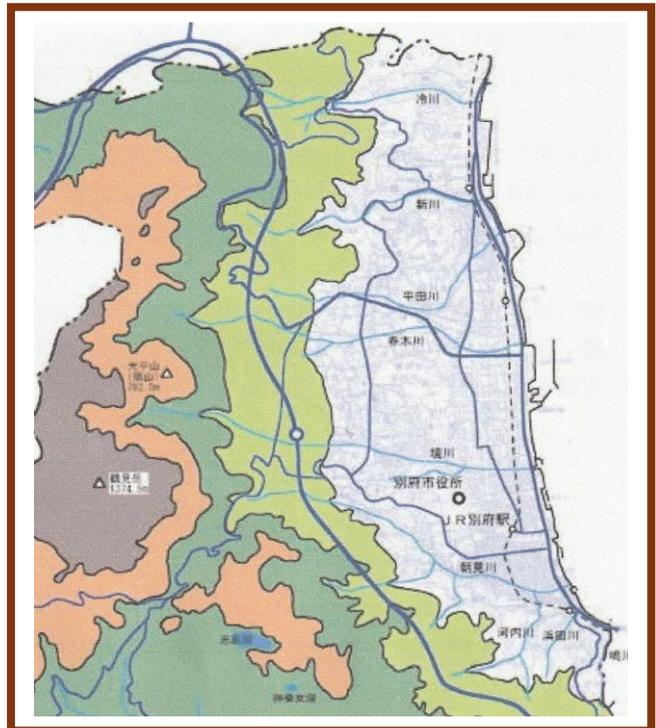


7. 朝見川エレジー(1)

春まだきの候ではあるが、川の水も心なしか温んできたので泉都メンタル・ラブソディ―を再開したくなった。子どもの頃、今でいうPTSD（注意欠陥多動症）、その頃は「高歩き」と言われていた子どもが、70年近く経って復活した。何のことはない。単なる徘徊爺さんである。

別府市はぐるりを全て火山に囲まれた扇状地に発展してきた温泉都市のため、大きな河川はないが、それでも二級河川が4本も流れている。北から新川、春木川、境川、そして朝見川である。新川の北には冷川が流れているし、新川と春木川の間には新川より長い平田川が流れていて両河川とも、新川より長さがある。もっとも平田川は地質学的は春木川の兄弟川で、はるか昔には春木川の支流だったらしい。地質学といえば境川も元々、上流部で現在の内山溪谷側に流れて春木川だったものが、大平山（扇山）の噴火と隆起によって現在のようになられた。朝見川のより南、大分市との境には鳴川が流れている。短い川ではあるがその昔の速見郡と大分郡を分ける川で、そこに掛かる橋はそのため両郡橋と呼ばれていた。鳴川という名も高崎山の北斜面に大雨が降ると、ゴロゴロと石の流れ落ちる音がするところから名付けられたと伝わっている。



藤助橋から河口を見る。河川改修ですっかり変わってしまったが、左岸の堤防は昔のままで、その奥がケーソンだ。

さて朝見川である。朝見川は鶴見山の南麓を中央構造線沿いの活断層に沿って流れている。わたしは別府市でも南部の育ちなので、川といえばなんといっても朝見川が最も親しみがある。そこで、まずは朝見川を河口から観海寺あたり迄遡ってみようと思う。

既に河口のケーソンは何度も訪れているが、一応、河口からということで、最初の橋は「藤助橋」。もっとも今の橋は平成16年にかけて替えられた新しいものだ。今では昔の面影はないが、わたしが子どもの頃は向浜と呼ばれていた漁村がまだまだ活気を呈していた。

定置網、底刺し網、底はえ縄漁が盛んで、ケーソンの周りでは、まだ天然繊維製だった

漁網を渋で煮るための大釜があったり、網を干しながら繕いをしている漁師さんたちの姿もあった。漁獲高ではカタクチイワシ（イリコ）が一番だったが、定置網に大きなウバザメだったかバカザメだったかがかかり、浜から当時のオート三輪二台で引き揚げたこともあった。地域のあちこちでカタクチイワシを煮て、天日干ししてイリコを作っていたし、サバ節（カツオ以外の魚種で作るケズリ節は全てそう呼んでいた）を作る工場もあって、向浜の子はイリコの匂いがすると、良く揶揄われたものだ。

住吉神社の夏祭りの時の渡御船もここから賑やかに出ていった。わたしも法被を着てお賽銭箱を持って走り回ったり、子ども御輿を担いだりしたものだ。右岸側には新しい漁港が整備されたが、先端のお地藏さんは今も見守ってくださっている。

次が国道10号線の朝日橋で、その次の橋が中島橋である。朝日橋から中島橋を見るのは久しぶりだが、わたしにとって朝見川もここから中島橋と次の新町橋までが、大切な縄張りだった。中島橋は別府の中心街から浜脇の遊郭へと向かう橋だし、新町橋も遊郭がらみの名前の通り、橋を渡った先は賑やかだった。いまはその面影さえなくなった。

中島橋下流の右岸側には当時グリーンハウスと呼ばれていた木造4階建てくらい大きな建物があって、米軍の陸上宿舎として使われていたのが、1955年に返還されたのちは、警察職員の住宅として使われていた。外壁が緑色に塗られたモダンな建物だった。

左岸側の日の出温泉の横には船溜まりがあって、満潮の時には木造の漁船が上がってきて、フナクイムシ対策をしていた。だんだんに使われなくなるとともに、なんとマングローブ植物のヒルギが生えていたことを懐かしく思い出す。その隅に文化アパートと呼んでいた市営住宅があった。今はコンクリートでできた市営住宅になっている。

今は護岸工事と浚渫のお陰で面影も無くなったし、川の中で遊ぼうという子供もいなくなったが、わたし達は何人かで協力して川の真ん中に人の頭ほどの石を積み上げて、畳3畳くらいの島を造っていた。2~3日そのままにしておくと、ウナギが石の間に入って、それを覗き眼鏡で見ながらウナギ鉋で捕まえるのだ。向浜の子どもにとって、ウナギは贅沢でもご馳走でもなく自分で獲りに行きさえすれば、サイズこそ小さかったがいつでも食べられるものだった。

新町橋を過ぎると次が旧10号線の中央橋だ。名前こそ中央橋だが、いにしへの国道10号の面影は無くなった。とはいえ今でも交通量は結構あるようだ。そこから上流の向かって右側（左岸）は、現在は別府市の「おひさまパーク」という多世代交流健康増進複合施設になっているが、その敷地にわたし



朝見川河口の右岸側に祭られているお地藏さん。右側のがわたしが子どもの頃からあったものだ。



河内川の合流部、右側に見える落ち口が蓮田川の暗渠の開口部

の母校別府市立南小学校があった。今では反対側のもう少し上流に、わたし達の小学生だった時代蓮田小学校があり、やがて浜脇小学校と名前を変えた後、南小学校との統廃合で、そこが南小学校になっている。中央橋を過ぎたすぐ上流、向かって左側（右岸側）から河内川が合流してくるが、合流部の河内川の河口部には朝見川橋が掛かっている。その朝見川橋の河内川側のすぐ上流部の向かって右側からもう一つ、そこまでは暗渠となっている蓮田川が開口して流れ込んでいる。小学生の時、その暗渠を友だちとふたりで懐中電灯の明かりを頼りに探検したことも懐かしい思い出だ。

当時、松原公園に接していた松原市場の屋台で皮蛋（ピータン）などアヒルの卵を売っていたが、その卵を産むアヒルはこの河内川沿いで飼われていて、いつも朝見川本流にぞろぞろと遊びに来るアヒルの群れを見かけたものだった。アヒルの群れが遊べるほど、当時のこの辺の朝見川は兩岸に広い河原があり、川面が広く穏やかな流れの岸边に水辺の草が繁茂していた。ツチガエルやアマガエル、時にはヒキガエルがいて、わたし達もオモチャ代わりにしていたし、カラスヘビと呼んでいたヤマカガシやシマヘビ、その老成型のクロヘビもいた。子ども達はクロヘビだけは大きくて黒いところが不気味で苦手だったが、カラスヘビやシマヘビは、オモチャにして遊んでいた。今から思えばヘビやカエルにしてみれば迷惑な話だったろうが。

今はない旧南小学校の本館、洋館、新館を思い浮かべながら歩くと、そこが西町橋で、次が蓮田橋、その次が末廣橋となり、やがて日豊本線の鉄橋が見えてくる。



ここから線路沿いに行き、一つ目のガードをくぐると桃太郎公園と長松寺がある。桃太郎公園の傍に、小学校一年生の時の恩師の家があり、何かの理由で先生が登校してこない日に、心配になって友だちとふたりで尋ねてきたことこともある。長松寺にはイチイガシの木があり、その大きなドングリを拾いに来ていたのだが、今はその木は伐られてしまったようだ。二つ目のガードをくぐると、今は市営の再開

発住宅になっている広いところに出る。そこはわたし達が子どもの頃は浄水場があったのと、養豚小屋がたくさん並んでいた。それでも梅雨の頃になると蓮田川の上流部の開渠部分にゲンジボタルがたくさん飛んで、そこまで捕まえに来たものだった。（続く）



左に見えるのが現在の南小学校、わたしは今は何もなっていないが、右側にあった南小学校に通っていた。カエルやヘビを捕まえていた河原も流れもご覧の通り、狭くなってしまった。

藤助橋～朝日橋(10号線)～中島橋～新町橋～朝見川橋(河内川)～中央橋(旧10号線)～西町橋(南小学校)～蓮田橋～末廣橋～日豊線鉄橋(桃太郎公園・長松寺・再開発住宅)